

フランスの地域競争力政策と食料・農業クラスター

国際領域 主任研究官 井上 荘太郎

1. フランスの地域競争力政策としてのクラスター政策

EUは2000年に、知識に基づいた競争力ある経済の構築を目標とする「リスボン戦略」を発表し、産業政策におけるイノベーション促進の重視を明確に打ち出しました。その後、2010年に発表された「EU2010—賢明で持続的で包摂的な成長」及び、「国際化時代に統合化された産業政策」（いずれもヨーロッパ委員会コミュニケ）も、イノベーションを重視し、さらに企業クラスターとネットワークの促進を重要な政策として示しています。農業分野でも、この「EU2010」で示された方向にしたがって、農政改革を進めていくことが求められており、2014年からのEUの新たな共通農業政策では、「知識移転とイノベーションの促進」を優先事項の一つにあげています。

こうした中で、フランスでは、地域競争力政策として、競争力クラスター、農村優良クラスター、企業クラスターの三つのクラスター政策が実施され、食料・農業に関連した分野のクラスターも形成されています（競争力クラスターは現在も継続中）。

競争力クラスターは、2004年に当時のシラク政権の地域計画開発省庁間委員会（CIADT）のもとで開始された新しい産業政策です。この政策はイノベーションをはじめ、国家の競争力を高める要素を束ねて強化することを目的として、同一地域の企業、高等教育機関、公的ないし民間の研究機関の集積を、競争力クラスターとして組織化するものです。そして各競争力クラスターが、研究開発とイノベーションのための経済振興プロジェクトを

参加企業や大学・研究機関等と共同で実施しています。

この政策による支援の内容は、主に、競争力クラスターの参加メンバーが共同で行う研究開発プロジェクトに対する補助金です。そして企業等がR&Dの公的資金を得ようとする場合には、必ず競争力クラスターを通して、申請する仕組みになっています。

2006年から実施に移され、現在は第3期（2013年～2018年）に入っており、71のクラスターが指定されています。競争力クラスターは、各省庁及び省庁間ワーキンググループ、地方公共団体、科学技術庁、中小企業支援機構等から、評価や補助金を通じて、事業の内容、戦略の方向性を制御されます（図）。

一方、全国の農村部には多くの農村優良クラスターが指定されています。この制度は、農林業生産、自然潜在力、技術に関する知識、文化遺産、余暇利用など幅広い分野を対象としています。そして

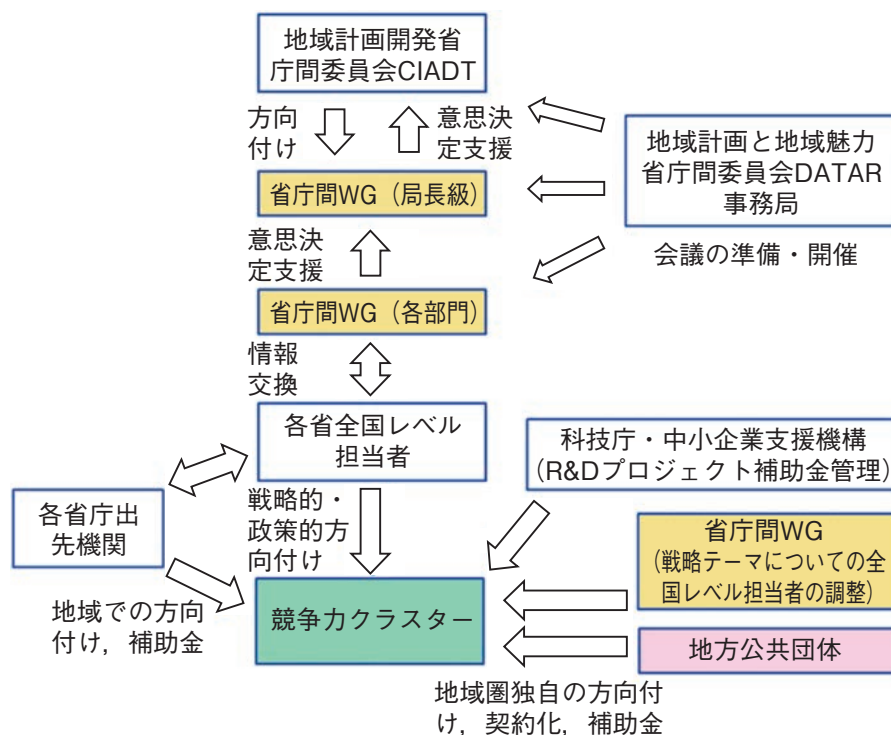


図 フランスの競争力クラスター制度の組織と運営

資料：Etude portant sur l'évaluation des pôles de compétitivité Rapport global, Erdyn, 2012, Figure 4 に基づいて作成。

生産、販売、観光など様々な活動のための調整機能を果たすことで、地域経済を振興し、雇用を維持し、さらには住民の生活面でのニーズにも応えることを目指しています。

三番目のクラスター政策である企業クラスターは、小規模な自営業者や中小企業による地域に根づいた活動を対象にした産業支援政策です。競争力クラスターと違い、企業クラスターの指定を受けるのに、研究機関や大学の参加は必要ではありません。また活動地域は、農村に限定されていません。つまり、同じ地域競争力政策ではありますが、企業クラスターは、他の二つのクラスター政策とは異なり、企業活動そのものを対象にした政策なのです。したがって三つのクラスター政策は、補完性を持っているといえます。競争力クラスターは都市地域で行われ、農村優良クラスターは農村部で活動するものです。また競争力クラスターが、産業システムでいえば川上に当たる研究・開発分野を振興するものであるのに対し、企業クラスターは、研究開発活動に限定されず、より川下部分の企業活動を支援しています。

2. 食料・農業に関連した二つのクラスターの事例 研究開発型のVITAGORAと地域埋め込み型のPASS

ここでは性格の異なった二つの事例を通じて、競争力クラスター政策の実態を紹介します。

ブルゴーニュ地域圏ディジョン市にあるVITAGORAは「食の喜び」と「健康」の両面に配慮した加工食品を開発する研究拠点として、ヨーロッパで主導的な地位を築くことを目標とした、食品分野の競争力クラスターです。現在173の企業・機関でネットワークが構築され（2012年）、そのうち19社が大企業です。食育、食品開発、食品加工技術、食品原材料農産物という四つの柱にしたがって研究プロジェクトが行われています。

VITAGORAの活動は、企業と研究機関のマッチングが中心になっており、各プロジェクトは参加企業によるオープン・イノベーションの実践過程とみることができます。例えば、T-falブランドの調理器具で知られるグループセブ社は、このVITAGORAをプラットフォームにして、大学、国立研究機関、中小企業等と連携し、フランスでは歴史の浅い、米の調理器具の開発プロジェクトNUTRICEを進めています。

さらにVITAGORAは、食品産業分野の他の競争力クラスターと連携して、フレンチ・フード・クラスターF2Cという組織を作っています。このF2Cは、日本の九州地域バイオクラスター推進協議会とも覚書を締結するなど、国際的連携を強化しています。

このように研究開発活動を充実させて、産業競争力の強化を図るのが、競争力クラスター制度です。ただし研究開発型のクラスターは、VITAGORAのように食品産業を対象としていても、地元農業との関係が弱い傾向があります。一方、地域固有の資源と当該産業の競争力が結合している場合には、たとえ研究開発の成果が劣っていても、クラスターと地場産業との結合に大きな意義があります。以下ではそうしたクラスターの例としてPASSを紹介します。

南仏のプロバンス・アルプス・コートダジュール(PACA)地域圏にある競争力クラスターPASSは、香水・香料産業の競争力クラスターで、126の企業、研究機関等から構成されています（2012年）。そのうち大企業は4社にとどまっており、中小企業の割合の多いことが特徴の一つです。PACA地域圏は昔から花卉と薬用作物の生産で知られており、特にラベンダーやバラの精油等で高いシェアを持っています。またラベンダー畑が広がる美しいプロバンスの風景などは、化粧品や香料を生産販売する企業の製品に良好なイメージを与える重要な資源になっています。

地域の農業と伝統産業が結合して成立したPASSですが、競争力クラスターとしての評価を見ると、研究開発のパフォーマンスは高くありません。社会的な研究によると、イノベーションの促進には、強すぎず弱すぎない「適度な」近接性が求められます。PASSでは、香水・香料の原料生産から加工、そして最終消費財の生産へと続く長い商品供給システム活動の多くが、PACA地域圏の社会経済と風土に結合しています。そのために各企業間の近接性が強くなりすぎてしまい、クラスター活動と研究開発の促進がうまく結びついていないのかもしれませんが、しかし、農業生産のように移動の困難な分野を抱えるクラスターの成果を見る上では、地域空間との結合は重要な要素です。PASSは、地域埋め込み型クラスターという類型として、その存在意義を評価されることが可能と考えられます。

またPASSは、農村優良クラスターの指定を受けた地元の組織と連携して、香水・香料産業のための教育訓練プログラムを実施しています。性格の異なるクラスター政策が連携して地元産業の競争力強化に貢献していることは注目されることです。（行政対応特別研究『6次産業化に関する研究（類似政策チーム）』）

（※）この成果は農林水産政策研究所研究成果報告会（平成26年3月25日開催）で報告しました。報告会の資料は下記の農林水産政策研究所ホームページでご覧になれます。

<http://www.maff.go.jp/primaff/meeting/kaisai/index.html>

また、この研究には、科学研究費助成事業（研究課題番号：23380135 代表 後藤一寿）による成果の一部も入っています。